マイナ保険証の普及・利用促進とカスタマーハラスメント対策

平井　玲子　議員

マイナ保険証の普及・利用促進について

質問 本市におけるマイナンバーカードの保有率は。

答弁 令和6年8月末時点で75・5％です。

質問 マイナ保険証の利用率は。

答弁 令和6年6月時点で国民健康保険加入者の利用率は11・66％、後期高齢者医療加入者の利用率は8・21％です。徐々に利用率は増加しています。

質問 マイナンバーカードを保険証として利用してもらうことで、患者本人の薬剤や診療のデータに基づくより良い医療が提供され、高額療養費制度の限度額適用認定証が不要になるなど、患者・医療現場それぞれに多くのメリットがありますが、情報漏えいなど、セキュリティ部分の考えは。

答弁 マイナンバーカードに搭載されているICチップには税情報や医療情報などプライバシー性の高い情報は記録されていません。メリットをご理解いただき、不安な点は丁寧な説明が大切だと考えています。

質問 マイナンバーカードを取得していない方への支援は。

答弁 障がいや病気など外出が難しい方、育児や介護などにより外出の機会が限られる方などには個人宅や施設に職員が出張訪問して申請の支援を行っています。

カスタマーハラスメント対策について

質問 職員に対するカスタマーハラスメントの現状は。

答弁 職員が悪質なクレームを受ける事案は、少なからず発生しています。

質問 市長として、どのように取り組んでいきますか。

答弁 いわゆるクレームと言われるものにも、市民サービスの向上につながる意見や要望もあります。職員が一人で悩むことのないよう、風通しのよい職場環境や相談しやすい体制整備などに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

小・中学校体育館のエアコン設置について

田辺　純子　議員

質問 現在、市内小・中学校体育館にエアコンの設置はないとのことですが、近隣自治体の状況を伺います。

答弁 桐生市は設置なし、太田市、明和町、邑楽町の3自治体は小・中学校体育館に全て設置、みどり市は2校に設置、板倉町は1校に設置、千代田町は今年度設置完了の予定、大泉町は中学校のみ設計を実施中となっています。

質問 設置なしの桐生市議会が、要望書を市長に提出しました。このままでは、東毛地域内で学校体育館のエアコンの設置が、実施も計画も無いのは本市のみとなります。市担当課として設置の必要性を伺います。

答弁 児童生徒の運動環境の改善や健康管理に有効な手段と考えており、必要性は認識していますが、課題も多いと考えています。

質問 市内小・中学校体育館の避難所としての現状を伺います。

答弁 現在、市内小・中学校体育館は全て指定避難所として指定されており、現状では空調設備が未整備であるため、状況に応じて普通教室や特別教室を避難スペースにする体制づくりに取り組んでいます。

質問 教室には机やイスがあり、十分な広さが確保できません。避難が長期化した場合の考えを伺います。

答弁 避難が長期化した場合、発災時と比べ避難が必要な方が減少すると想定されるので、避難所の再編成を実施し、教育施設以外の公共施設等に集約するなど、災害者支援と教育活動のバランスが重要になると考えています。

質問 現時点で、エアコン設置の計画は無いとのことですが、課題を伺います。

答弁 導入には高額の初期投資と維持費が必要であり、将来にわたる財政負担が大きな課題となっています。

質問 国は補助金を提案しており、周辺自治体も進めています。今、市を挙げて進めるべきと思いますが。

答弁 関係各課と連携しながら学校体育館へのエアコン設置について、慎重に検討していきたいと考えます。